

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

⑨ 日本国特許庁 (JP)  
⑩ 公開特許公報 (A)

⑪ 特許出願公開  
昭55-148617

⑫ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 60 J 3/04

識別記号  
厅内整理番号  
7535-3D

⑬ 公開 昭和55年(1980)11月19日  
発明の数 1  
審査請求 有

(全 3 頁)

⑭ 自動車の受光制限装置

⑮ 特願 昭54-57866

⑯ 出願 昭54(1979)5月11日

⑰ 発明者 佐々木恒雄

池田市莊園2丁目4番19号

⑪ 発明者 肥塚透

兵庫県揖保郡御津町中島1950

⑫ 出願人 佐々木恒雄

池田市莊園2丁目4番19号

⑬ 出願人 肥塚透

兵庫県揖保郡御津町中島1950

明細書

1. 発明の名称

自動車の受光制限装置

2. 特許請求の範囲

1. 一方の自動車の前照燈前面に受けられた第一個光膜と、他方の自動車の運転席に受けられた第二個光膜とからなり、第一個光膜と第二個光膜とを、第一個光膜を出た側光の一部又は全部が第二個光膜で遮断される相対角度で配置したことを特徴とする自動車の受光制限装置。

3. 発明の詳細な説明

本発明は自動車の受光制限装置に関するものである。

夜間、対面道路で自動車等を運転する場合、運転車にとって対向車の前照燈(ヘッドライト)の光が非常にまぶしく感じられる。どのような場合にそのまぶしさのあまり、対向車の車体を目撲するのが困難になつたりまた自己の運転する自動車の前方にある障害物(人、電柱等)を目撲するが困難になつたりする。これは極めて危険な

状態であり、時には不運の事故を引き起すことになる。そのため、自動車には前照燈の照射方向切換装置が付設されているのが普通であり、対面道路では各自動車の運転者が自己の自動車の前照燈の照射方向を斜め下方に向くように調節しているのが現状である。しかしながら前照燈が斜め下方に向くように調節されている場合には、その対向車の前照燈の光に起因するまぶしさは幾分か緩和されるものの、運転者における可視距離は十数メートル以内の範囲となる。この状態では、前方の障害物を全く確認できないこともあり得、特に自動車が高速で走行している場合に問題である。同様のこととは後続している自動車の前照燈からの光が、室内鏡(ルームミラー)や車幅鏡(サイドミラー)等で反射して運転者の目にに入る場合にも言える。

本発明は以上の点に鑑みてなされたものであり、対向車の前照燈の照射方向が運転車の目視方向に對面している場合、あるいは後続車の前照燈からの光の室内鏡や車幅鏡による反射方向が前記目視

(1)

(2)

第1図において、(1)は対向車の前照燈(2)の前面に設けられた第一の偏光膜である、前照燈(2)から出した自然光は、この第一の偏光膜(1)を通過することにより偏光(3)となる。(4)は別の自動車の前照燈に設けられた第二の偏光膜であり、運転者はこの第二の偏光膜(4)を通して前記偏光(3)あるいは外部の風景を目視する。この第二の偏光膜(4)は、第一の偏光膜(1)に対して前記偏光(3)の全部を遮断し得るよう相対角度で配置されている。以上によると、運転者の視覚には、対向車の前照燈(2)から照射されている光が全く感じられないが、第一の偏光膜(1)を通り抜ける他の光、たとえば対向車の姿や前方の障害物は、第二の偏光膜(4)のみを通して目視することとなるので確実に遮断することができる。

第2図は実用例を示している。この実用例は、第二の偏光膜(5)を室内鏡あるいは車輪鏡(6)の前面に設け、第一の偏光膜(7)を後続車の前照燈(8)の前面に設けたものである。(9)は偏光である。これによると、室内鏡あるいは車輪鏡(6)で反射される光

(4)

方向に對面している場合であつても、運転者にとってはそれによるまぶしさが極端に軽減され、あるいは全くその光を感じない状態で安全運転を実現することができるものとの提供を目的とする。

ところでサングラスやショーウィンドーには、反射光を自然光から分離して、見る者にまぶしさを感じさせないようにするために、偏光膜が使用されたものがある。この種の偏光膜を二枚重ね合わせ、これを通して風景等を目視する場合には、一方のものを他方のものに対して重ねさせたまま順次回転させるとその風景等の明るさが両者間の相対変位量に応じて次第に低下したり、あるいは向上したりする。かかる特性を有する偏光膜は周知であり、前記の現象が生じる理由は、自然光が一方の偏光膜を通過することによって偏光となり、この偏光の一部又は全部が他方の偏光膜によって遮断されるからである。

本発明は以上のような周知の偏光膜を利用したものであつて、以下の実用例を図面に基づき説明する。

(1)

は、第一の偏光膜(1)及び第二偏光膜(5)を通過したものであるので、運転車は後方の風景や後続車の姿のみを目視することができ、前照燈(8)の照射光は目視されない。

以上は一方の自動車の前照燈から照射される光のみを、他方の自動車の運転者において完全に遮断し得るように構成した例を説明したものであるが、一部を遮断し得るように構成することもできる。この場合は、第一の偏光膜と第二の偏光膜とを、その相対角度を図示例のものを基準として正又は逆方向に所要量だけ回転方向に変位させて配置する。なお第1図、第2図中仮想線で示したもの(以下フィルター格子という)は、第一偏光膜及び第二偏光膜のフィルター特性を説明するためのものであり、現実に目視できるものではない。

前記した二つの実用例において、第一偏光膜及び第二偏光膜の装着手段は、既存車に対しては、既存ガラス板上にクイニングしたり、ユニット形式あるいは車体の内部と外部との間で出嵌し得る形式として着脱自在とするのが適まさしく、また新

(5)

車車に対しては、これ以外に本来設けられるべきガラス板にサンドイッチ状に嵌み込んだりするのが適まさしく、そしてそれらの場合において、第8図のように、一台の自動車の前照燈(一部又は全部であるを問わない)即、室内鏡即、車輪鏡即、前照燈前面のそれぞれに、前記フィルター格子が水平線に対して同一方向に45度の傾斜角を有するように偏光膜(5)を設ければ、これと同様の關係で偏光膜が設けられている対向車あるいは後続車の前照燈の光のみを完全に消すことが可能となるのである。

以上の説明から明らかかのように、本発明によると、夜間、対面道路で自動車を運転する場合においても対向車あるいは後続車の前照燈の光をまぶしく感じることはなくなる。したがつて前照燈による前方照射方向を水平化することができ、長距離に亘つて十分な視界を得ることができる。又えて対向車、後続車あるいは前方の障害物等を的確に認識することができるため、安全な運転を実現することができる。

(6)

## 6. 図面の簡単な説明

第1図、第2図は本発明の原理図、第3図は説明用斜視図である。

(1)(7)…第一の側光鏡、(2)(8)…前照燈、(3)(9)…側光、(4)(10)…第二の側光鏡、(6)…室内鏡あるいは車幅鏡

特許出願人 佐々木恒雄  
黒塚透

